

「白神山地における林業体験学習」

津軽森林管理署 ○ 技術専門官 工藤 大輔
流域管理調整官 一戸 剛

1 はじめに

近年、森林が有する公益的機能の高度発揮に対する国民の期待は一層高まってきており、このような期待は、「開かれた国有林」としてフィールドの提供・森林ボランティア・森林環境教育活動等拡がりを見せている。当署においても、今年度様々なイベントを実施してきたが、参加者の「白神山地」、「ブナ」への関心が高いことに着目し、この2つのキーワードを元に今回の課題研究へ取り組んだ。

2 フィールドの概要について

平成2年3月に林野庁が白神山地を森林生態系保護地域に設定、平成4年7月には環境庁が自然環境保全地域に指定、さらに優れた自然を人類共通の財産として守り後世に引き継ぐため、平成4年10月、白神山地の世界遺産登録をユネスコに申請。

平成5年12月、コロンビアのカルタヘナで開催された、第17回世界遺産委員会総会で、白神山地の世界遺産登録（自然遺産）が正式に決定された。

白神山地は、青森県西南部から秋田県北西部にかけて広がる16,971ha（青森県側12,627ha、秋田県側4,344ha）の地域を指し、ブナの原生林を主体とする山地である。

その中には、国の天然記念物のクマゲラやイヌワシをはじめ学術的にも、貴重な動植物が生息しており、極めて価値の高い森林生態系が保たれている。

ブナ原生林の圧倒的自然、そして白神山地でしか見ることができない貴重な動植物の数々はこの場所を訪れる人々に感動を与える。

3 実施状況について

(1) 森林との共生を考える会 in みやぎ（ボランティアによる除伐・枝打）

森林との共生を考える会では、表-1にかかげている手をつけてはならない森林と、手をかけ育て活用すべき森林があるという基本姿勢で、宮城県を拠点に山村林業の活性化を展開している団体である。

今回、白神山地において、地拵・除伐・枝打の林業体験を実施した。

表-1

森林と共生を考える会

ア 目的：手をつけてはならない森林と、手をかけ育て活用すべき森林がある基本姿勢で、山村林業の活性化のため、行動を展開。

イ 日時：平成13年9月15日

ウ 場所：169林班い2小班6.42ha内

エ 作業種：除伐・枝打等

(2) 白神山地を守る会（ボランティアによる地拵）

9月8日に「白神山地を守る会」のボランティア、19名による地拵を実施。

現地は、白神山地の保全利用地区に接した鬼川辺国有林内で、つる類や灌木が繁殖し、歩行も困難な造林地である。

当日は、小雨の中湿度90%と非常に汗ばむ中での作業であったが、怪我もなく無事に終了した。

表-2

白神山地を守る会

ア 目的：白神山地の自然保護運動の一環として進めている「ブナの森の復元運動」

イ 日時：平成13年9月8日・平成13年10月5日

平成13年10月6日・平成13年10月24日

ウ 場所：177林班ろ2小班3.55ha内・179林班い7小班

3.27ha内・178林班ろ2小班9.93ha内

エ 作業種：地拵・除伐・枝打等



写-1

(3) 白神山地を守る会（秋田県高清水小学校による植樹・枝打）

10月5日、秋田県高清水小学校5年生80名が、ブナ植樹等体験学習を行った。現地は、9月15日にボランティアの地拵を実施し、子供たちの迎え入れる準備は整っていた。

当日は、小雨の中、雨具を身につけての植樹となりました。

ブナの苗木にとっては、最良のコンディションであり、また、植樹作業にも支障なく、ブナ植樹の体験学習が順調に進んだ。

ブナ植樹後は、年輪を知る方法である。ブナの輪切りを、7個用意し、これに生長錘を回しながら、垂直に差し込んでいく。途中、なかなか回らず、悪戦苦闘しながら生長錘を体験した。



写-2



写-3

また、今回の体験林業を通じたアンケートを実施したところ、表-3のとおりとなった。そして、小学生の感想として、森林管理署の準備（仮設トイレの設置・現地へ行く途中の安全ロープの設置・ブナの水を準備・紙芝居の配布）について24名おり、中でも「何故、大人が子供に対して協力してくれるのかが不思議だった。」という貴重な意見もあり、今回のイベントは成功したと思う反面、今後のイベント実施へ向け考えさせられる意見でもあった。

表-3 アンケート（何が一番楽しかったか？）

～秋田県高清水小学校5年4,6名に聞きました～

項 目	男	女	計	備 考
津 軽 森 林 管 理 署 の 対 応	17	7	24	
体 験 林 業	3	5	8	
植 樹	2	2	4	
生 長 錘		4	4	
そ の 他	3	3	6	
計	25	21	46	

(4) 白神山地を守る会（白神山地エコロジーツアー体験ツアーによる植付・枝打）

10月6日、白神山地エコロジーツアー体験ツアー30名が上中村山国有林を訪れブナの植樹等体験林業を実施した。

当日は、ブナ植樹のほか、枝打用高枝鋸を使用しての枝打ちを行い、枝打ちではスギ枝の切断する音に感動する人や歓喜する人もおり、指導する側も真剣そのものであった。



写-4

(5) 白神山地を守る会（神奈川県立金井高等学校）

10月24日、神奈川県立金井高等学校の修学旅行生45名がブナの植樹体験に訪れた。当日は、管理署職員の指導のもと、植樹、今年度イベントの目玉

である枝打ちを実施したところ、枝打用高枝鋸を使用しての枝打は難しいと思われたが、高校生は職員の心配をよそに、簡単に枝打用高枝鋸を操作し、次々枝を落としていった。

高校生も次第に枝打にのめり込み、体験林業の時間をオーバーするほどでした。

最後には、当署長による森林教室が行われ、巨木の直径測定や、手製の「ブナの森」の冊子を配布し、白神山地の概要やブナの撫から樹の解説、更には環境問題など、1時間にわたり講義した。



写-5



写-6



写-7

(6) 黒石市、中南農林水産事務所共催（こけしの森、植樹祭）

今年度の実施イベントの中で、9月23日には「水清き・人情のあつい・あずましの里」黒石市において、こけしの森植樹祭を実施した。現地は、黒石市の二庄内ダムを展望できる要人国有林で、こけしで有名な黒石市の里山にイタヤカエデやミズキなど、こけしの材料となる木を植樹し、森林づくりをしながらこけし文化の継承を図ることを目的に、約180人により植樹を実施した。



写-8



写-9

4 おわりに

白神山地の保全利用地区に接した舞台上、多面的機能の発揮に向けた適切な森林の整備に向け、林業体験を実践してきましたが、「白神山地」・「ブナ」への関心の高さに加えて、「枝打用高枝鋸」を使用した「枝打」が一番人気を博しております。

最近では、造林事業の中でも、事業として行われなくなった「枝打」ですが、案外参加者に対しては、一番親しみやすい体験ではないか。

また、大人から子供まで、林業体験を通して、自然とのふれあい、自然に親しむボランティア団体等や小学生等が増えてきている中、今年度のイベント参加者数は、309名で、職員の指導職員数は22名であった。

昨今、世界遺産地域への一般の立ち入りが難しいことから、フィールド周辺の白神の豊かなブナ林を觀賞しながら、ブナ植樹等の体験をし、人工林の持つ、美的景観の確保に留意しながら、今後も白神山地におけるブナの植樹体験等を実施していきたいと考えている。